



おたがいさまがつながり、生きる

未来ファンドおうみ助成事業2014 募集案内

助成事業

- ①おうみNPO活動基金助成
- ②びわこ市民活動応援基金助成
- ③びわ湖の日基金助成
- ④積水化成品基金助成
- NEW** ⑤笑顔あふれるコープしが基金助成

表彰事業

日本の元気なきずなプロジェクト基金
「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」

募集期間

2013年12月1日(日)～2014年1月19日(日)17時必着

助成期間

2014年4月～2015年3月

寄付支援事業（随時募集）

おうみチャレンジ基金助成

淡海ネットワークセンター

(公益財団法人 淡海文化振興財団)

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

TEL : 077-524-8440 FAX : 077-524-8442

E-mail office@ohmi-net.com

ホームページ <http://www.ohmi-net.com/>

未来ファンドおうみについて

淡海ネットワークセンターは2011年4月の公益財団法人への移行を機会に、市民の想いを込めた寄付による市民活動支援の仕組みをつくるために、「未来ファンドおうみ」を創設しました。

当センターでは、2002年度にNPOの自立支援を目的に「おうみNPO活動基金」を設置し、これまでに、滋賀県や企業、個人の皆さまから資金提供を受けながら、これまでに延べ100団体あまりに対して、総額1億円を超える助成を行ってきました。

未来ファンドおうみは、この「おうみNPO活動基金」の趣旨を引き継ぎながらも、さらにより幅の広い助成や充実した支援につなげるために、市民の地域への想いや市民活動を支える市民の「志」を寄付としてお受けし、市民活動団体への助成事業へつなげていきます。

2013年12月現在、未来ファンドおうみでは以下の基金を開設しています。

助成事業

おうみNPO活動基金

市民活動団体が新しい活動を展開し、継続発展しながら活動を続けるための組織運営の強化を目的に開設しました。

積水化成品基金

積水化成品工業株式会社の寄付により、琵琶湖や河川、森林の生物多様性の保全活動への支援を目的に開設しました。

びわこ市民活動応援基金

2010年、関西アーバン銀行（旧びわこ銀行）と行員の皆さまからの寄付により、ボランティア活動の促進を目的に開設しました。

NEW 笑顔あふれるコープしが基金

生活協同組合コープしがの寄付により、人と人をつながり信頼が広がる社会の実現をめざした活動への支援を目的に開設しました。

びわ湖の日基金

「びわ湖の日」制定30周年（2011年7月）を記念して琵琶湖の環境保全に関わる実践活動および調査活動への支援を目的に開設しました。

表彰事業

日本の元気なきずなプロジェクト基金

びわこ市民研究所の寄付により、地域社会の課題解決に向けての自主的、継続的な市民の取り組みを讃えることを目的に開設しました。

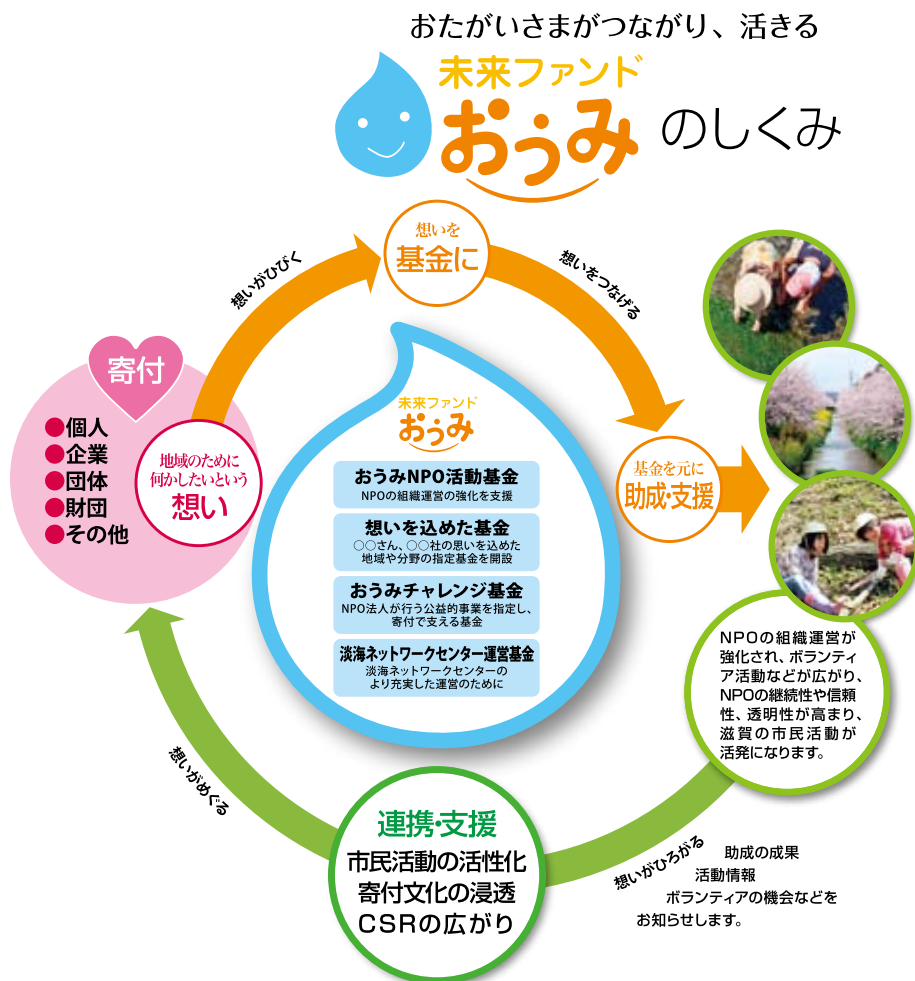
寄付支援事業

おうみチャレンジ基金

特定非営利活動法人が行う公益的事業を広く市民に伝え、市民の寄付によって市民活動を支える社会の実現を目指して開設しました。

目 次

1. 助成事業 助成の特徴および募集要項	・・・・・・・・ 1
2. 表彰事業 未来ファンドおうみ 日本の元気なきずなプロジェクト基金 「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞 募集要項	・・・・・・・・ 9
3. 寄付支援事業 未来ファンドおうみ おうみチャレンジ基金助成 募集要項	・・・・・・・・ 11
4. 【別表】未来ファンドおうみ審査評価基準	・・・・・・・・ 15



1. 助成事業 助成の特徴および募集要項

市民が主体的に公益的な活動に取り組むことによって、いきいきとした地域社会がかたちづくられることに大きな期待が寄せられています。淡海ネットワークセンターでは、個人や企業などからお寄せいただいた寄付を皆さまの活動支援につないでいきます。

今回は下記の5件の助成事業があります。(どこへ申請したらよいかはご相談ください。)

※いずれの事業も特定非営利活動法人または特定非営利活動法人に準ずる団体(以下「NPO」という。)が応募できます。特定非営利活動法人に準ずる団体とは、特定非営利活動促進法別表に掲げる活動を行う団体(任意団体を含む)で、定款、規約、会則等を持ち、組織として意思決定ができるものをいいます。

募集期間：2013年12月1日(日)～2014年1月19日(日)

助成期間：2014年4月～2015年3月

- 募集内容：**
- 1) おうみNPO活動基金助成
 - 2) びわこ市民活動応援基金助成
 - 3) びわ湖の日基金助成
 - 4) 積水化成品基金助成
 - 5) 笑顔あふれるコープしが基金助成

1) おうみNPO活動基金助成事業の特徴

「おうみNPO活動基金」は、市民活動団体の組織運営の強化を目的に、滋賀県の資金により2002年度に設立されました。県内の企業や団体、個人の方々からの寄付によって、これまでに延べ100団体あまり、総額1億円を超える助成を行ってきました。

助成事業の実施に当たっては、淡海ネットワークセンターが助成金だけでなく、多方面から支援し、組織運営の強化を支えます。

助成事業の概要

<助成対象の事業>

団体に2年以上の活動実績があり、活動の発展と基盤強化につながる新たな取り組みが対象です。

NPOが継続、自立できるように、直接経費に限らず間接経費(40%限度)も助成します。

<助成限度額等>

助成対象経費の3/4以内で、50万円から150万円までの範囲内で決定

<採択予定団体数>

数件程度

<助成総額>

200万円程度

<対象経費>

会議費、諸謝金、人件費、福利厚生費、旅費など。

詳細は要項をご覧ください。



**NPO法人近江八幡市手をつなぐ
育成会(2013年採択)**

障害のある子どもの保護者が集い、同じ立場の親同士が思いを共感しあう場として活動します。

2) びわこ市民活動応援基金助成事業の特徴

「びわこ市民活動応援基金」は、ボランティアや市民活動の支援を目的に、関西アーバン銀行（旧びわこ銀行）と社員の皆さまからの寄付金によって開設されました。これまで、地域の多くの市民やボランティアが関わる活動などへ助成を行ってきました。

助成事業の概要

<助成対象事業>

地域で多くの人々が関わり、今後も継続することが期待できる取り組みが対象です。

（事業化や地域や他団体とのネットワークを促すものなど）

- <助成額> 30万円以内
- <採択予定団体数> 数件程度
- <助成率> 10/10
- <助成総額> 100万円程度
- <対象経費> 直接事業費のみ



どろんこの会（2013年採択）

子ども達が農業体験を通して、自ら進んで行う自発性を高める子どもになってもらいたいと活動しています。

3) びわ湖の日基金助成事業の特徴

「びわ湖の日基金」は、2011年にびわ湖の日30周年を記念して、琵琶湖と琵琶湖につながる河川や森林などの保全に関わる市民による実践活動や調査活動などの支援を目的に開設されました。

助成事業の概要

<助成対象事業>

琵琶湖の保全に関わる、年間を通じた実践活動や調査活動などで、今後も継続することが期待できる取り組みが対象です。

※ただし、びわ湖の日一斉清掃関連の活動は除外します。

- <助成額> 30万円以内
- <採択予定団体数> 数件程度
- <助成率> 10/10
- <対象経費> 直接事業費のみ



鴨と蛍の里づくりグループ （2013年採択）

自然環境の変化を自然観察会を通して、地域の環境を守っていく必要性を訴える活動をしています。

4) 積水化成品基金助成事業の特徴

「積水化成品基金」は、「人と環境を大切に 夢をふくらませる」積水化成品グループによる、琵琶湖や河川、森林の生物多様性保全活動の支援を目的に、2012年に積水化成品工業株式会社からの寄付により開設されました。市民による環境保全活動の充実をめざし助成を行います。またグループ社員もボランティア活動として助成団体の活動に参加することにより社員の社会貢献活動もめざしています。

助成事業の概要

<助成対象事業>

甲賀市、湖南市、草津市、守山市、栗東市、野洲市を含む湖南地域で行われる取り組みを優先します。年間をとおして、継続的な環境保全活動を行っており、社員もボランティアとして参加できる活動を対象とします。

<助成金額> 20万円以内

<採択予定団体数> 若干数

<助成率> 10/10

<対象経費> 直接事業費のみ



NPO法人 甲賀の環境・里山元気会
(2013年採択)

積水化成品グループ社員も参加しての里山元気会による生き物観察や棲みやすい環境づくり活動をしています。

5) 笑顔あふれるコープしが基金助成事業の特徴

「笑顔あふれるコープしが基金」は、「人と人とがつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現」をめざすことを目的に、生活協同組合コープしがの創立20周年記念事業としての寄付により開設されました。

始めたばかりの活動、またこれから始める活動を優先的に助成していきます。

助成事業の概要

<助成対象事業>

地域高齢者等の居場所づくりや見守り活動、子育てや食育など、私たちの身近な問題への取り組みが、私たちのよりよい暮らしづくりに繋がっていく活動が対象です。

<助成金額> 10万円以内

<採択予定団体数> 数件程度

<助成率> 10/10

<対象経費> 直接事業費のみ

1) 募集共通項目

<応募対象者>

次のすべてに該当する特定非営利活動法人または特定非営利活動法人に準ずる団体（以下「NPO」という。）が応募できます。

- 1 滋賀県内に活動拠点または事務所を有すること
- 2 継続的な活動が期待できるものであること

※特定非営利活動法人に準ずる団体とは、特定非営利活動促進法別表に掲げる活動を行う団体（任意団体を含む。）で、定款、規約、会則等を持ち、組織として意思決定ができるものをいいます。

<助成対象事業>

次のすべてに該当する事業とします。

- 1 不特定多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする事業
- 2 非営利の事業
- 3 NPOが自主的に取り組む事業
- 4 次のいずれにも該当しない事業

①宗教活動および政治活動

②特定の公職者（候補者を含む）または政党を推薦、支持、反対することを目的とする事業

<助成申請受付期間>

2013年12月1日(日)～2014年1月19日(日)17時必着

（ファックス、eメールは受理しません。[持参または配達記録の残る配送方法](#)で提出してください。）

申請に係る相談は、12月1日(日) から受け付けます。（要予約）

<助成期間>

2014年4月から2015年3月までの一年間

<助成事業の選定方法>

- 1 助成事業の選定は、未来ファンドおうみ運営委員の審査（書類による一次審査、公開プレゼンテーションによる二次審査）により行います。

公開プレゼンテーションは**2014年3月2日(日)**に開催しますので、一次審査を通過し、出席を求められた申請団体は参加してください。（一次審査の結果は2月下旬に通知します）

- 2 審査の評価基準は別表B（15頁）のとおりです。一次審査は申請書の書類審査で、二次審査は申請書と公開プレゼンテーションをベースに、それぞれの委員が評価基準に基づいて第一次判断をし、持ち寄って合議の上、総合的に最終判断をします。（審査は非公開）

- 3 委員会の審査結果は、各申請団体へ文書でお知らせします。

- 4 委員会の審査により、申請額より助成額が減額されることがあります。

※おうみNPO活動基金以外は審査結果によっては、申請した助成先と異なる助成事業で採択されることもあります。

<申請の方法>

- 1 所定の申請書に必要事項を記入のうえ、淡海ネットワークセンターへ持参するか、配達記録の残る配送方法（期限内必着）にて送付してください。（ファックス、eメールは受理しません。）申請書には、次の書類を添付してください。
 - ①定款、規約、会則など、申請団体の組織運営のわかるもの
 - ②役員名簿、またはそれに準ずるもの
 - ③2013年度の事業計画書と予算書、またはそれに準ずるもの
※笑顔あふれるコープしが基金助成への応募の場合は、2013年度の事業計画書と予算書は、なくてもかまいません。
 - ④おうみNPO活動基金助成への応募の場合は、③に加えて過去2カ年分（2011年度、2012年度）の事業報告書と決算書類、またはそれに準ずるもの
 - ⑤申請団体の活動状況がわかるパンフレット、ニュースレター、写真など（任意）
- 2 申請書の様式は、ホームページからダウンロードしてください。淡海ネットワークセンターに請求いただいても結構です。

<個人情報の取り扱いについて>

ご記入いただいた個人情報は、当財団の事業以外には利用いたしません。

<採択後のスケジュール>

2014年3月下旬	採否のお知らせ
4月	助成期間の始まり
5月18日	2013年採択団体成果発表会へ参加、助成金の前払い手続き
10月	中間報告・相談会へ出席
2015年3月	助成期間の終了
4月	助成事業実績報告書、領収書（コピー可）の提出
5月	2014年採択団体成果発表会で発表 助成金の精算支払い

※進捗状況把握のため年間3回程度、事務局が訪問します。

※注意事項

助成事業で作成するチラシ、ポスター、情報誌や報告書などの印刷物には、未来ファンドおうみ助成事業を受けている旨および指定のロゴを記載してください。ロゴのデータをお渡しします。

<事業サポートと交流促進による支援>

採択事業の実施に当たり、淡海ネットワークセンターが情報提供や組織マネジメント、他の組織への橋渡しなどの支援を多面的に行います。また、助成が決まった団体（助成団体）の自立と採択事業を支援するために、相談会や、必要に応じて、組織マネジメントについてアドバイザーの派遣を行います。（団体に費用の一部負担あり）

さらに、助成団体と淡海ネットワークセンターによる交流会を開催して助成団体同士や寄付者と淡海ネットワークセンターの交流を深め、情報交換や相互協力により、それぞれの活動の進展を図ります。

2) 募集別項目

1. おうみNPO活動基金

<助成の区分と助成対象額等>

- ① 1つのNPOに対する助成額は、50万円から150万円までの範囲とします。
- ② 助成率は助成対象経費の3/4以内とします。
- ③ 間接経費（事務職員の人件費や事務所の家賃など。以下同じ）にかかる助成は、助成総額の40%以内とします。
- ④ 情報提供や組織マネジメント、他の組織への橋渡しなどで淡海ネットワークセンターが支援します。
- ⑤ 採択事業の進捗を把握し、支援するため、事業実施期間中にヒアリングを実施します。
- ⑥ 採択事業の取り組みを中間段階で相談会を行い、委員や外部アドバイザーによるアドバイスを受ける機会を設けます。また、助成事業終了後に成果発表会を開催します。

<助成対象経費と助成方法>

- ① 助成対象経費はつぎのとおりとします。
給料・手当、福利厚生費、会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、修繕費、印刷製本費、燃料費、光熱水費、賃借料、保険料、委託費、諸謝金、固定資産取得支出（不動産をのぞく）、雑費等。
- ② 助成が決まった団体（助成団体）には、必要に応じて80%を限度に前金払いし、残りの額は事業実績報告に基づいて支払います。
- ③ 助成対象となった経費の領収書は、5年間保存してください。経費資料の提出は領収書（コピー可）を提出してください。
- ④ 事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

2. びわこ市民活動応援基金

<助成の区分と助成対象額等>

- ① 1つのNPOに対する助成額は30万円以内とします。
- ② 助成率は、助成対象経費の10/10です。
- ③ 採択事業の進捗を把握し、支援するため、事業実施期間中にヒアリングを実施します。
- ④ 採択事業の取り組みを中間段階で相談会を行い、委員や外部アドバイザーによるアドバイスを受ける機会を設けます。また、助成事業終了後に成果発表会を開催します。

<助成対象経費と助成方法>

- ① 助成対象経費はつぎのとおりとします。
会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、印刷製本費、燃料費、保険料、委託費、諸謝金、雑費等。
- ② 助成が決まった団体（助成団体）には、必要に応じて80%を限度に前金払いし、残りの額は事業実績報告に基づいて支払います。
- ③ 助成対象となった経費の領収書は、5年間保存してください。経費資料の提出は領収書（コピー可）を提出してください。
- ④ 事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

3. びわ湖の日基金

<助成の区分と助成対象額等>

- ① 1つのNPOに対する助成額は30万円以内とします。
- ② 助成率は、助成対象経費の10/10です。
- ③ 採択事業の進捗を把握し、支援するため、事業実施期間中にヒアリングを実施します。
- ④ 採択事業の取り組みを中間段階で相談会を行い、委員や外部アドバイザーによるアドバイスを受ける機会を設けます。また、助成事業終了後に成果発表会を開催します。

<助成対象経費と助成方法>

- ① 助成対象経費はつぎのとおりとします。
会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、印刷製本費、燃料費、保険料、委託費、諸謝金、雑費等。
- ② 助成が決まった団体（助成団体）には、必要に応じて80%を限度に前金払いし、残りの額は事業実績報告に基づいて支払います。
- ③ 助成対象となった経費の領収書は、5年間保存してください。経費資料の提出は領収書（コピー可）を提出してください。
- ④ 事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

4. 積水化成品基金

<助成の区分と助成対象額等>

- ① 1つのNPOに対する助成額は20万円以内とします。
- ② 助成率は、助成対象経費の10/10です。
- ③ 採択事業の進捗を把握し、支援するため、事業実施期間中にヒアリングを実施します。
- ④ 採択事業の取り組みを中間段階で相談会を行い、委員や外部アドバイザーによるアドバイスを受ける機会を設けます。また、助成事業終了後に成果発表会を開催します。

<助成対象経費と助成方法>

- ① 助成対象経費はつぎのとおりとします。
会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、印刷製本費、燃料費、保険料、委託費、諸謝金、雑費等。
- ② 助成が決まった団体（助成団体）には、必要に応じて80%を限度に前金払いし、残りの額は事業実績報告に基づいて支払います。
- ③ 助成対象となった経費の領収書は、5年間保存してください。経費資料の提出は領収書（コピー可）を提出してください。
- ④ 事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

5. 笑顔あふれるコープしが基金

<助成の区分と助成対象額等>

- ① 1つのNPOに対する助成額は10万円以内とします。
- ② 助成率は、助成対象経費の10/10です。
- ③ 採択事業の進捗を把握し、支援するため、事業実施期間中にヒアリングを実施します。
- ④ 採択事業の取り組みを中間段階で相談会を行い、委員や外部アドバイザーによるアドバイスを受ける機会を設けます。また、助成事業終了後に成果発表会を開催します。

<助成対象経費と助成方法>

- ① 助成対象経費はつぎのとおりとします。
会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、印刷製本費、燃料費、保険料、委託費、諸謝金、雑費等。
- ② 助成が決まった団体（助成団体）には、必要に応じて80%を限度に前金払いし、残りの額は事業実績報告に基づいて支払います。
- ③ 助成対象となった経費の領収書は、5年間保存してください。経費資料の提出は領収書（コピー可）を提出してください。
- ④ 事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

2014年度から「笑顔あふれるコープしが基金助成」が新しく仲間入りしました。ふるって、ご応募くださいね。



2. 表彰事業 日本の元気なきずなプロジェクト基金 「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞 募集要項

【日本の元気なきずなプロジェクト基金について】

地域社会の課題解決に向けた、市民による自主的かつ継続的な草の根のまちづくりや取り組みを、地域の人々とともに讃え、さらに今後の発展を願うために、2011年、びわこ市民研究所の寄付により開設されました。

<目 的>

地域社会の課題解決に向けた、市民による自主的かつ継続的な草の根のまちづくりや取り組みを、地域の人々とともに讃え、さらに今後の発展を願い、選考基準に基づき表彰します。

表彰団体は、滋賀のモデル的事業として朝日新聞の広告ページに掲載します。さらに副賞として賞金も授与されます。

この表彰事業は、びわこ市民研究所が株式会社朝日エリア・アドの協力のもと、きずなの力によるまちづくりを紹介していくことで、さらに、地域社会の「良ききずな」が広がることを目的に実施します。

<表 彰>

淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞・・・4団体（朝日新聞広告ページへの掲載、副賞5万円）

<募集内容>

1. 応募資格

次のすべてに該当する特定非営利活動法人または特定非営利活動法人に準ずる団体（以下「NPO」という。）が応募できます。

- (1) 滋賀県内に活動拠点または事務所を有すること
- (2) 5年以上の継続的な活動を行っていること

※特定非営利活動法人に準ずる団体とは、特定非営利活動促進法別表に掲げる活動を行う団体（任意団体を含む）で、定款、規約、会則等を持ち、組織として意志決定が出来るものをいいます。

2. 応募対象

地域社会の課題解決に向けて、草の根的なまちづくりを自主的かつ継続的に地域の人々とともに取り組んできた活動を表彰します。対象とする団体は、地域社会のきずなを強め、地域社会を元気にする活動に5年以上取り組み、成果をあげて活動している団体とします。

3. 応募受付期間

2013年12月1日(日)～2014年1月19日(日)17時必着

（ファックス、電子メールは受理しません。持参または配達記録が残る配送方法にて送付してください。）

応募にかかる相談は、12月1日(日)から受け付けます（要予約）。

4. 選定方法

- 1 選定は未来ファンドおうみ運営委員の審査（書類審査）により行います。（審査は非公開）
- 2 審査の評価基準は別表Aのとおりです。
- 3 審査の経過により、応募者からヒアリングを行う場合もあります。
- 4 委員会の審査結果は、各応募者へ文書でお知らせします。

5. 応募方法

- 1 所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、淡海ネットワークセンターへ持参するか、配達記録が残る配送方法にて送付してください。（ファックス、電子メールでの応募は受理しません。）
応募には、次の書類を添付してください。
 - ①定款、規約、会則など、応募団体の組織運営のわかるもの
 - ②役員名簿、またはそれに準ずるもの
 - ③過去2カ年分（2011年度、2012年度）の事業報告書と決算書類、またはそれに準ずるもの
 - ④2013年度の事業計画書と予算書、またはそれに準ずるもの
 - ⑤応募団体の活動状況が分かるパンフレット、ニュースレター、写真、活動の実績が分かる報告書など過去5年以上の実績がわかるもの。
- 2 応募用紙は、ホームページからダウンロードしてください。淡海ネットワークセンターに請求いただいても結構です。また、説明会でもお渡しいたします。

6. 個人情報の取り扱いについて

ご記入いただいた個人情報は、当財団の事業以外には利用いたしません。

7. 依頼事項について

- 1 朝日新聞広告ページは上部3分の2を表彰団体のPR記事、下部3分の1が同団体を応援する企業・団体・個人等の広告スペース、という構成になっています。表彰団体の活動の持続可能性強化に向け、多様な支援・協力者とのつながりを構築する目的で、団体には広告協賛依頼活動を行っていただきます。（朝日エリア・アドがサポートします。）
ただし、集める協賛金額のノルマは一切ありません。
- 2 授賞式 2014年5月18日(日)
(同日に行われます未来ファンドおうみ助成事業2013成果発表会で活動発表をしていただきます)

【別表A】未来ファンドおうみ「淡海のつなぐ、ひらく、みらい」賞審査評価基準

評価基準	評価の視点
先 駆 性	時代に先駆けているかどうか。
地 域 連 携	事業計画、収支も含めて事業そのものが将来にわたって続けられる体制にあるかどうか。 事業を進めるに当たって、地域社会との連携があるかどうか。
地域信頼性	地域に根ざした組織になっているか。地域に根ざして、地域での活動が幅広く多くの人たちによって支えられている活動になっているかどうか。

3. 寄付支援事業 おうみチャレンジ基金助成 募集要項

「おうみチャレンジ基金」は、特定非営利活動法人（NPO法人）が行う公益的事業を指定し、指定された活動が継続的に行われるための寄付集め（ファンドレイジング）を支援することによって、より多くの市民が寄付をとおして活動に参加できる機会を提供し、民が民を支える新たな寄付文化を目指して設立されました。

この助成はNPO法人のうち、認定NPO法人を目指して継続的な寄付集めと組織基盤の強化を目指すNPO法人を対象とします。淡海ネットワークセンターは、支援助成期間をとおして公益財団法人としての税制メリットを活かし、寄付者の開拓をNPO法人とともに企画し、寄付集めのノウハウを獲得することを目的に実施するとともに、市民からの信頼性と情報の公開性の高い組織運営体制を整えるための支援を行います。

応募期間 随時募集

支援期間 原則2年としますが、支援期間は相談の上、決定します。

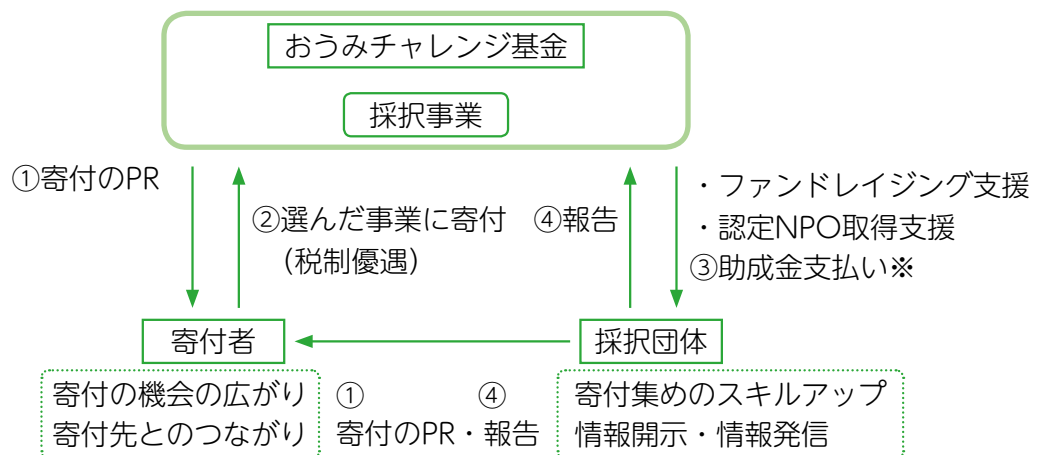
（寄付募集期間は支援期間開始から終了日以前の指定日まで）

採択予定団体数 若干数

おうみチャレンジ基金助成の特徴

- 1) おうみチャレンジ基金助成に申請事業が採択されたNPO法人（採択団体）は、原則2年間の支援期間中の指定した寄付募集期間をとおして、淡海ネットワークセンターとともに採択事業について寄付募集を行います。
- 2) 採択団体は、寄付を集めるための企画、ホームページやパンフレットなど伝わりやすい広報などについて、淡海ネットワークセンターとともに企画、実施し、寄付集めを行います。
- 3) 採択事業については、当センターのホームページに活動紹介のための特設サイトを開設します。当センターの情報誌などでの広報も行います。
- 4) 寄付は淡海ネットワークセンターをとおして集めます。これによって寄付者は公益財団法人への寄付として税制優遇を受けることができます。
- 5) 採択団体への助成金は、集まった寄付から運営基金充当額を差し引いた金額を支給します。
- 6) 採択団体は、寄付者へ寄付の用途と活動状況を伝え、寄付の継続を促していきます。

おうみチャレンジ基金助成事業イメージ



※助成金支給は、集まった寄付金を3ヶ月毎に支払います。

①寄付の企画	採択団体と淡海ネットワークセンターは市民への寄付PR企画、寄付期間について協議、決定します。
②寄付募集	寄付募集を開始します。市民がおうみチャレンジ基金の採択事業を指定して寄付をします。
③助成金支給	寄付された金額を寄付募集から3か月毎に集計し、助成金として採択団体へ支給します。
④報告	採択団体は、採択事業の進捗を定期的に寄付者と淡海ネットワークセンターへ報告します。

採択団体は、支援期間中に実施される中間相談会・成果発表会に参加します。

淡海ネットワークセンターは、年数回、採択団体を訪問し、事業進捗の確認と認定NPO法人申請への支援を行います。

<応募要件>

1. 対象団体

次のすべてに該当する特定非営利活動法人（NPO法人）

- 1 滋賀県内に活動拠点または事務所を有すること
- 2 継続的な活動が期待できる団体であること
- 3 2年以上の活動実績があるNPO法人であること
- 4 認定NPO法人を目指す意志があること
- 5 寄付集めを自ら行う意志があること

2. 対象事業

対象団体が行う、次のすべてに該当する事業を対象とします。

- 1 不特定多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする事業
 - 2 非営利の事業
 - 3 NPO法人が自主的に取り組む事業
 - 4 次のいずれにも該当しない事業
 - ①宗教活動および政治活動
 - ②特定の公職者（候補者を含む。）または政党を推薦、支持、反対することを目的とする事業
- かつ、次のいずれかに該当する事業を対象とします。
- 1 継続的に実施している事業のうち拡充と強化が見込まれる事業
 - 2 新規に立ち上げる事業で、継続的に行われると見込まれる事業

<申請額（助成額）と助成の区分>

①申請額（助成額）の上限は定めません。ただし、30万円以上であることとします。

※未来ファンドおうみでは、寄付された額の10～20%を運営基金へ充当します。支給する助成額は、寄付金額から運営基金充当額を差し引いた金額となります。

<未来ファンドおうみへの寄付金額の運営基金充当額>

寄付金額100万円未満	充当率20%
寄付金額100万円～300万円未満	充当率15%
寄付金額300万円以上	充当率10%

②助成率は、助成対象経費の10/10です。

③助成対象経費は、事業にかかる直接経費および間接経費とします。

④間接経費（事務職員の人件費や事務所の家賃など。以下同じ）にかかる助成は、助成総額の40%以内とします。

<助成対象経費と助成方法>

①助成対象経費はつぎのとおりとします。

給料・手当、福利厚生費、会議費、旅費交通費、通信運搬費、消耗什器備品費、消耗品費、修繕費、印刷製本費、燃料費、光熱水費、賃借料、保険料、委託費、諸謝金、固定資産取得支出（不動産をのぞく）、雑費等。

②助成が決まった事業について、寄付募集期間を採択団体とともに協議し、決定します。

③寄付募集開始から3ヶ月毎に寄付金額を集計し、翌月に助成額を支給します。

④寄付額が申請額を超えて集まった場合、申請額および事業計画の再提出をしていただきます。

⑤事業不履行、虚偽の申請・報告の場合には、助成金は返還いただきます。

<申請受付>

随時募集として、申請に係る相談は、随時受付します。

※必ず当助成に関する相談を受けてから申請してください。

<支援期間>

原則2年としますが、支援期間は相談の上、決定します。

<助成事業の選定方法>

- 1 助成事業の選定は、未来ファンドおうみ運営委員の審査（書類、プレゼンテーション）により行います。また、申請団体を訪問し、運営状況について事前確認を行う場合もあります。
- 2 審査の評価基準は、未来ファンドおうみ審査評価基準（15頁）のとおりです。
- 3 委員会の審査結果は、申請団体へ文書でお知らせします。

<申請の方法>

- 1 申請時期は、申請希望のNPO法人と相談の上、決定します。

所定の申請書に必要事項を記入のうえ、淡海ネットワークセンターへ持参するか、配達記録の残る配送方法で送付してください。（ファックス、eメールは受理しません。）

申請書には、次の書類を添付してください。

- ①定款
- ②役員名簿
- ③過去2カ年分の事業報告書と決算書類
- ④当年度の事業計画書と予算書
- ⑤活動状況がわかるパンフレット、ニュースレター、写真など

<個人情報の取り扱いについて>

ご記入いただいた個人情報は、当財団の事業以外には利用いたしません。

<採択後のスケジュール>

※採択後のスケジュールについては、申請の相談時にお話します。

※進捗状況把握および認定NPO法人に向けた支援のため年間複数回、事務局が訪問します。

※中間発表・成果発表へ出席していただきます。

※注意事項

助成事業で作成するチラシ、ポスター、情報誌や報告書などの印刷物には、未来ファンドおうみ助成事業を受けている旨および指定のロゴを記載してください。ロゴのデータはお渡しします。

<認定NPO法人へのサポートと交流促進による支援>

認定NPO法人に向けて、淡海ネットワークセンターが情報提供や組織マネジメントなどの支援を多面的に行います。また、必要に応じて、組織マネジメントについてアドバイザーの派遣を行います（団体に費用の一部負担あり）。

さらに、助成団体と淡海ネットワークセンターによる交流会を開催して助成団体同士や助成NPO、寄付者と淡海ネットワークセンターの交流を深め、情報交換や相互協力により、それぞれの活動の進展を図ります。

寄付に託された応援の気持ちを
NPO法人へ届けます。



【別表B】 未来ファンドおうみ審査評価基準 (◎大変重要 ○重要)

評価基準		評価の視点	おうみNPO活動基金 おうみチャレンジ基金	びわこ市民活動支援基金 びわ湖の日基金 積水化成成品基金	笑顔あふれる コープしが基金	
企 画	アイ デ ア	先 駆 性	時代に先駆けているかどうか。	○	○	
		必 要 性	いまの社会的なニーズに込えているかどうか。	◎	◎	◎
		緊 急 性	単なる必要性ではなく、これを優先的に取り上げなければならない緊急性。いろんなニーズがあるなかでなぜこの事業なのか。	◎	○	
		波 及 性	このアイデアが将来は幅広く利用されたり、活動として広がっていく可能性があるかどうか。	◎	◎	
		目 標 設 定 性	企画を立て設定した目標が大変優れたものであるかどうか。また、目標がきわめてユニークであるか。	◎	○	
		手 法 性	目標達成の手法や手段が、従来型とは違ってユニークであること。また、目標達成に適している合理的に組み立てられていること。手法そのものの中の総合性や企画力発揮度はどうか。	◎	○	
		地 域 性	それぞれの地域での環境条件、地域の資源、特性を活かしているか。滋賀県らしさがあるかどうか。	◎	◎	
	実 現 力	事業計画性	事業そのものを着実に実行していける計画性を持っているかどうか。目標を設定してどの段階まで何をやるかといった計画性があるかどうか。	◎	◎	◎
		事業費比率	人件費、その他諸経費が適切に見込まれているかどうか。	◎	◎	
		収 益 性	事業の中で、特に料金や販売など事業の収益を適切に見込んでいるかどうか。	◎		
		収支全般	助成金も含めて将来にわたる収支見通しがきちんと立っているかどうか。	◎		
	継 続 性	事業計画、収支も含めて、事業そのものが将来にわたって続けられる体制にあるかどうか。	◎	◎		
	組 織	事務局体制	事務局体制が確立されているかどうか。(事務所を持っているかどうかではなく、事務局機能があるかどうか。)	◎	◎	
		人的資源	事務局を支える人、人のネットワークを含めた人的な資源の確保ができているかどうか。	◎	◎	
資金等獲得		資金・物の調達力・獲得力。これまでの資金の収支も含めてお金の問題を適切に処理できていたかどうか。資金獲得が難しいとしてもそれに代わる資源の調達ができているか。または、今後できるかどうか。	◎	○		
情報デザイン		情報の収集、発信、PR力などの活動の基幹に関わる情報の処理の能力あるいはシステムがあるかどうか。PRをしようとする意欲があるかどうか。	◎	○		
地域信頼性		地域に根ざした組織になっているか。地域に根ざして、地域での活動が幅広く多くの人たちによって支えられている活動になっているかどうか。	◎	◎	◎	
自己分析性	自分たちが何をしなければならないのか。自らのミッションを明確に意識をして、その行動に優先順位が付けられているかどうか。	◎	◎			

未来ファンドおうみ運営委員

井手 慎司 (滋賀県立大学 教授)

柴山 直子 (有限会社 柴山建築研究所 代表取締役)

辰巳 勝則 (滋賀銀行株式会社 総合企画部CSR室長)

成瀬 和子 (NPO法人しみんふくし滋賀 専務理事)

福井久美子 (NPO法人NPOぽぽハウス 理事)

(50音順 敬称略)

未来ファンドおうみについて

未来ファンドおうみは、皆さまの地域への想いと市民活動を支える市民の「志」を寄付としてお受けし、市民活動団体への助成事業としてつなげています。「おたがいさまがつながり、生きる」社会づくりのしくみとなる未来ファンドおうみへの寄付をお考えの方は、淡海ネットワークセンターまでご相談ください。

詳細につきましては、インターネットにて「未来ファンドおうみ」で検索してください。

【おうみNPO活動基金】

市民活動団体の組織運営の強化を目的に、滋賀県から資金を受け、2002年に設立されました。

ご寄付いただいた皆さま:滋賀県、(財)民間都市開発推進機構、(株)滋賀銀行、旧(株)びわこ銀行、東京海上アセットマネジメント投信(株)、生活協同組合コープしが、(株)NTTドコモ関西、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド、しがぎんリース・キャピタル(株)、損保ジャパンちきゅうくらぶ、レーク商事(株)、富士ゼロックス(株)、大阪ガスグループ京滋地区“小さな灯”運動、オムロン(株)草津事業所、(社)全日本不動産協会滋賀県本部・(社)不動産保証協会滋賀県本部、ほか、個人の皆さま多数(2013年10月現在)

【びわこ市民活動応援基金】

ボランティアや市民活動の支援を目的に、関西アーバン銀行(旧びわこ銀行)と社員の皆さまからの寄付金によって、2010年2月16日に設立されました。

【びわ湖の日基金】

びわ湖の日30周年を記念して、琵琶湖と琵琶湖につながる河川や森林などの保全に関わる、市民による実践活動や調査活動などを支援するために2011年7月1日に設立されました。

ご寄付いただいた皆さま:株式会社のうえ、抱きしめてBIWAKO実行委員会、有限会社とも栄菓舗、株式会社ヌーベルムラチ、一般社団法人比良里山クラブ、真田かずこ、有限会社豆藤、株式会社ロハス余呉、びわ湖ボートレース場内募金、匿名個人さま2件(2013年10月現在)

【日本の元気なきずなプロジェクト基金】

地域社会の課題解決に向けて、市民による自主的かつ継続的な草の根のまちづくりや取り組みを、地域の人々とともに讃え、さらに今後の発展を願うために、2011年、びわこ市民研究所の寄付により開設されました。

【積水化成品基金】

「人と環境を大切に夢をふくらませる」積水化成品グループによる、琵琶湖および河川、森林の生物多様性保全活動の支援を目的に、積水化成品工業株式会社からの寄付により、2012年7月11日に開設されました。

【笑顔あふれるコープしが基金】

生活協同組合コープしが創立20周年記念事業としての寄付により、地域高齢者等の居場所づくりや見守り活動、子育てや食育など、私たちの身近な問題への取り組みが、私たちのよりよい暮らしづくりに繋がっていく活動を支援するために、2013年8月2日に開設されました。

(敬称略)

未来ファンドおうみ助成事業2014説明会日程

米原会場	12月8日(日)	10:00~11:30	米原公民館
近江八幡会場	12月8日(日)	13:30~15:00	アクティ近江八幡
草津会場	12月8日(日)	16:30~18:00	草津市立まちづくりセンター
高島会場	12月10日(火)	19:00~20:30	今津東コミュニティセンター
大津会場	12月12日(木)	18:30~20:00	淡海ネットワークセンター
甲賀会場	12月14日(土)	10:00~11:30	あいこうか市民活動 ボランティアセンター



未来ファンドおうみは、皆さまの地域への想いと市民活動を支える市民の「志」を寄付としてお受けし、市民活動団体への助成事業としてつなげています。

「おたがいさまがつながり、生きる」社会づくりのしくみとなる未来ファンドおうみへの寄付をお考えの方は、淡海ネットワークセンターまでご相談ください。



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 TEL: 077-524-8440 FAX: 077-524-8442
E-mail office@ohmi-net.com ホームページ <http://www.ohmi-net.com/>